

亜鉛栄養治療 第4巻 第2号

目 次

ご挨拶	宮田 學 38 (2)
(総説) 加齢黄斑変性と亜鉛	山城健児 39 (3)
(総説) 創傷治癒における亜鉛：亜鉛トランスポーターの役割	西田圭吾 42 (6)
(研究) 皮膚疾患と亜鉛	川村龍吉 49 (13)
(短報) 透析患者への亜鉛製剤投与による貧血改善及びESA 製剤使用量削減への期待	岩田鉄矢 53 (17)
(短報) 当院の職員健診における亜鉛測定の結果 (中間報告)	清瀧肇博 58 (22)

近畿亜鉛栄養治療研究会からのお知らせ

第8回近畿亜鉛栄養治療研究会 会場風景	A39
第8回近畿亜鉛栄養治療研究会報告	A41
第8回近畿亜鉛栄養治療研究会出席者	A41
第8回近畿亜鉛栄養治療研究会世話人会および総会報告	A42
役員改選の報告	A43
会員通信 今後の研究会の発展に向けて	神戸大朋 A44
C型肝炎治療を通じた亜鉛との巡り合い	長嶺竹明 A44
近畿亜鉛栄養治療研究会に参加して	増本幸二 A45
アトピー性皮膚炎とコシヒカリ	渡辺和彦 A46
近畿亜鉛栄養治療研究会に参加して	瀬古 敬 A47
近畿亜鉛栄養治療研究会設立4周年を祝して	小味潤智雄 A48
第10回 ISTERH の報告	A49
第10回国際微量元素学会 (ISTERH 2013) シンポジウム “Zinc Deficiency in the Aged” 報告	… A52
「亜鉛文庫」登録主要図書	A55
第9回近畿亜鉛栄養治療研究会ご案内	A57
平成26年度会費納入のお願い	A59
近畿亜鉛栄養治療研究会定款	A61
付 則	A62
役員名簿	A63
府県支部 支部長・副支部長名簿	A66
会員名簿	A67
平成25年度会計報告	A69
投稿規定	A70
編集後記	A71

ご挨拶

近畿亜鉛栄養治療研究会は、平成26年4月1日に創設満4年を迎えました。近畿の肝臓病学の分野でご活躍中の3人の先生方とともに細々と始めた研究会でしたが、多くの方々に支えられて会員300名の会に発展して参りました。今回、第2回目の役員の改選により、平成28年3月31日まで2年間、26名の顧問、44名の世話人の計70名の役員で研究会を運営して参ることになりました。

昨年度は、3周年記念事業として、8月に京都で市民公開講座とジャズコンサートを開催しました。秋には東京で開催された第10回国際微量元素学会 (児玉浩子会長) の公募シンポジウムに応募し、亜鉛欠乏症の発見者プラサド博士をはじめ3名の著名な外国からの研究者にご参加いただき「高齢者の亜鉛欠乏症 (Zinc Deficiency in the Aged)」なるシンポジウムを企画しました。亜鉛の基礎および臨床における世界トップレベル研究者と交流を深めることができ実りあるシンポジウムになりました。

亜鉛は300種類以上の酵素の構成成分あるいは活性化因子として生体の発育および生命の維持に極めて重要な役割を果たしていますが、日常診療における亜鉛補充療法は広く普及するに至っておりません。

研究会は年2回開催し、臨床各科において長年亜鉛の臨床研究に取り組んで来られた先生方や基礎分野の第一線でご活躍の先生方にご講演をいただいて参りましたが、学術集会でご講演いただいた内容は年2回発行する会誌「亜鉛栄養治療」に論文としてご投稿いただき掲載いたしております。掲載論文が25編になりましたので3周年記念事業の一環として論文集第1集を昨年8月に刊行いたしました。

研究会は、ようやく基礎固めができ、今後どのような方向で運営して行くかを考えなければならない時期にきています。医療用の亜鉛製剤は少なく保険適用も限られておりますが亜鉛の栄養治療が有効な疾患や病態は多くあります。今後、学術的評価に耐え得るエビデンスの確立に向けて、研究会主導の臨床疫学プロジェクトなども考えていかねばならないと考えています。

ともすれば亜鉛治療は民間療法、代替医療のひとつと考えられがちで各臨床医学会でも真剣に検討され難い点がありますが、実際には健康維持に重要な必須微量元素のなかでも、亜鉛はとくに免疫能の維持、細胞再生の促進に重要な働きをしており、偏見なく評価して欲しいという思いがあります。

味覚障害はじめ亜鉛の有用性は広く一般に知られてきており安価なサプリメントも市販されているので健康増進のためにも亜鉛補給の普及に努めるとともに、臨床医家の先生方には血清亜鉛の測定を推奨し亜鉛治療の普及に努めたいと思います。そのためには、若い世代の力を結集してインターネットその他で会員募集や広報活動を行う必要があります。世代交代の時期にきていると思われまますので、今回の役員改選において新たに4名の先生方に副代表世話人をお願いし、多少なりとも実務を担当していただくことになりました。なお一層のご支援とご指導をお願い申し上げます。

平成26年4月吉日

近畿亜鉛栄養治療研究会
代表世話人 宮田 學